

平成29年度 第1回瀬戸市環境衛生審議会議事録		
日時	平成30年2月13日(火) 午前10時から午前12時まで	
場所	やすらぎ会館2階 201会議室	
出席者	委員	出席者：小林委員、藤井委員、石神委員、伊藤委員、 服部委員、村瀬委員、吉田委員 欠席者：なし
	事務局	長谷川市民生活部長 (環境課) 山内課長、長江課長補佐兼環境保全係長、 久野ごみ減量係長、後藤ごみ減量係主事
傍聴者		なし
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長江補佐から会議成立の報告</li> <li>・長谷川部長から挨拶</li> </ul> <p>2 議事</p> <p>(1) 会長及び副会長の選任について</p> <p>資料1を用いて、委員の互選により会長 小林委員、副会長 藤井委員に決定した。</p>		
会長	<p>私は本計画の策定時から携わっており、会長を務めさせていただくのは5年目になる。本審議会の実施にあたり、事前に説明を伺っているが全体としては着実にごみ減量が進んでいるようである。ただし、個別に見ていくと解決すべき課題は残っており、更なるごみ減量を進める為にも、本審議会が中心となって課題に取り組んでいきたい。とりわけ、これまでは家庭系ごみを中心にごみ減量施策を進めてきたが、今後は事業系ごみの減量にも着手していきたいと考えている。</p> <p>それでは、次第に沿って議事を進めていく。本日は瀬戸市長より平成30年度瀬戸市一般廃棄物処理実施計画(案)に関する諮問書をいただいている。(諮問書を読み上げる)本日はこの諮問事項について審議したいと思うので、活発な討議をお願いします。</p>	
(2) 報告事項について		
事務局より資料2について説明。		
委員	資源化率だけに着目すると目標値から後退しているように見えるが、資源物量は減少している。これは、ごみ減量として良い方向に進んでいると考えてよいのか。	
事務局	資源物も含めた全体のごみ量が減少していることは良い傾向であるが、紙類をはじめとした資源物量も減少していることについては、良し悪しを申し上げにくい。ただし、排出されるごみの中で資源化できるものは分別していただき、資源化率を上げていきたいと考えている。	
会長	全体のごみ量を減らしつつも資源化率を上げ、焼却するごみ量を減	

	<p>らすことが一番であるとする。また、資源物量の減少については、民間の資源物回収業者が回収した資源物量の把握が難しいことも一因として挙げられる。</p>
事務局	<p>資源物のリサイクルは、資源物を焼却して埋め立て処分するよりも好ましい行為であるが、よりコストがかかる行為でもある。現在の技術をもってすれば、コストをかけて生ごみや陶磁器を資源化し、ごみ減量をすることもできる。今後のごみ減量施策を検討する上で、コストをかけてごみ減量を行うことは施策の一つではあるが、3Rの中でも、リデュースを促進することで、そもそもごみの発生を抑制するように促すことはごみ減量の優先されるべき施策である。</p> <p>また、瀬戸市は陶磁器の町であるが故に、廃陶磁器は北丘最終処分場に埋め立てるのではなく、コストをかけてでもリサイクルすべきだという意見がありましたら、また後ほどいただきたく思う。</p> <p>ごみというのはコストをかければ形を変えることができるが、瀬戸市の現状と今後どうすればよいかということコスト面も含めてごみ減量施策を検討いただければと思う。</p>
委員	<p>北丘最終処分場に埋め立てしている量は、どのように推移しているのか。</p>
事務局	<p>おおまかには減少傾向である。焼却残渣の半分以上はASECに運搬し、残りは北丘最終処分場に埋め立てしている。廃陶磁器やガラス屑等の不燃性破碎残渣の全量は北丘町に運搬している。北丘最終処分場は残り30年ほどで、ASECは残り20年ほどで埋め立てが完了する。両方の最終処分場が使用できなくなった際には、新たに瀬戸市内に最終処分場を設けるのか、他の既存の最終処分場を利用するのか選択をする必要がでてくる。</p>
委員	<p>廃陶磁器の最終処分量は、どれくらいか。</p>
事務局	<p>一般廃棄物として排出された廃陶磁器のみの量を把握することは難しい。なお、産業廃棄物として排出された廃陶磁器は、瀬戸市の陶土採掘場跡地に埋め立てができるようになっている。瀬戸市は一般廃棄物における廃陶磁器の割合が多く、製陶所から排出された廃陶磁器が一般廃棄物として混入している可能性もある。北丘最終処分場にそのような産業廃棄物の廃陶磁器が混ざらないような仕組みも検討したい。</p>
事務局	<p>実数値を確認したところ、北丘最終処分場への搬入量は、ASECに搬入していることもあり減少傾向である。全体の最終処分量も減少傾向である。</p>
委員	<p>最終処分量の詳細がほしい。</p>
事務局	<p>後日、送付させていただきます。</p>
委員	<p>「資源」というものについて、資源物と呼んだり廃品回収と呼んだり、雑がみがミックスペーパーという名称に変わったりと市民が情報についていけなくなっている様子が見受けられる。もう少し市民目線に立って、ミックスペーパーの名称が変更になったのであれば、「ミックスペーパー（雑がみ）」という表記にするなど工夫があるとよい。</p> <p>また、瀬戸市の人口減少とごみの減量についてどのように関連付け</p>

	て考えているか伺いたい。
事務局	従来の雑がみから排出できる紙の種類や排出方法が変更になり、差別化を図るためにミックスペーパーという名称に変更をした。名称の変更により混乱をきたさぬよう、広報等で周知を行う予定である。また、人口も踏まえたごみ量の指標として1人1日当たりのごみ量というものがあり、この指標を参考にしながらごみ減量施策を進める必要がある。また、人口が減少してごみ量が減ると、焼却施設の規模を縮小する等の検討が行われる可能性がある。
会長	ミックスペーパーに（雑がみ）を併記するといった提案は、とてもいい案であり、次回冊子を作成する際の参考とするとよい。
委員	6頁に記載されているペットボトルキャップの量について、平成28年度から平成29年度にかけて急に増えているが、分別の意識が浸透したからか。
事務局	そもそもの回収量が少ない中、昨年12月末に実施した「分けっこ広場」で大量のペットボトルキャップが集まったために、今年度の量が増えたと思われる。また、平常時にキャップをリサイクルしたいとの問い合わせを受けた際には、資源リサイクルセンターに持ち込むよう案内をしている。
事務局より資料3について説明。	
会長	ごみ減量推進会議の服部議長と伊藤副議長に本日お越しいただいている。一言よろしく願います。
委員	先ほどのグラフより、ごみ量がリバウンドしているように思われる。また、委員の入れ替わりがほとんどないため、いつも似通った議論をしがちである。我々の活動について、何かお気づきの点がありましたら、是非ともご意見いただきたい。
委員	長い間、ごみ減量推進会議の委員を務めているが、議論が堂々巡りになっている気がする。市民のごみに関する意識を高めようと、様々な周知方法検討しているが、効果的な方法が見つからず四苦八苦しているところである。とりわけ雑がみに関する意識が低いように感じているが、勉強会など直接顔を合わせて指導することは効果的な手法の一つと考えている。 また、雑がみやダンボールをコンテナで回収している場所が市内で増加しているが、そういった拠点の存在を市は把握できているのか。
事務局	把握できていない。また、こういった拠点が aumentando していることが、市の資源化率低下の一因になっていると思われる。今後、これら拠点における回収量も把握できるよう検討する。
委員	子ども会の廃品回収量は把握しているのか。
事務局	把握しており、各計画の数値にも反映されている。
会長	ごみ減量推進会議はほぼ毎月開催され、いつも会議室が使用可能な時間ギリギリまで行われている。排出者のごみに対する意識が低いのは以前からの課題ではあるが、飛躍的に改善されるようなものではなく、地道に進めるしかないと考える。これまでのごみ減量推進会議の取り組み結果は着実に出ており、これほど市民が絡んでごみ減量に取り組んでいるところも珍しいと思う。

委員	<p>コンビニで買ったものを、道端でポイ捨てされているのをよく見る。近隣住民が清掃をしているが、このようなポイ捨て行為に対して指導することはできないのか。昔は自社付近の清掃活動を行うことは当たり前であったが、現在はそのような姿勢も見受けられない。広報誌で地域をお互いにきれいにしましょうといった記事を見たことがあるが、市民だけではなく事業者向けにも広報するとよい。</p> <p>また、昨今恵方巻の大量廃棄が問題視されているが、食品ロスの問題について事業者もより取り組む必要があると考える。</p>
事務局	<p>1点目の街の美化について、そのような地域の方による清掃活動を広報せとにて周知を行ったり清掃用袋を配布したりしている。今後も街全体がきれいになるような活動を続けていきたい。</p> <p>2点目の食品ロスについては、事業者向けの食品ロス対策を商工会議所等にご協力いただきながら、ごみ減量推進会議で施策を検討する予定である。</p>
会長	<p>事業系ごみの減量については、商工会議所さんにご協力いただきたく思うので、ご協力をお願いします。</p>
事務局より資料4について説明。	
委員	<p>組成調査の対象となる地区は毎年同じか。</p>
事務局	<p>同じである。</p>
委員	<p>地区別にごみの特徴はあるのか。</p>
事務局	<p>各地区のサンプル数は20袋と少なく、地区別に特徴を見出すことが難しい。ただし、トータルで見ると特徴を見出すことができる。</p>
委員	<p>大都市では、ごみの収集方法を戸別収集に変更したところもあるようで、各自がごみに対して責任を持つようになり、ごみ出しマナーの向上とごみ減量の効果がみられたようである。</p>
事務局	<p>近隣では、長久手市が似たような収集で、パッカー車が通るルート上であれば、どこにごみを出しても良いというルート収集を実施しているが、ルート上どこにでも出せるため、ごみへの責任感が低めである。瀬戸市の場合は、地域でごみ置場の場所を決めてもらい、ある程度顔の知れた人同士がごみを出しているため、各自責任を持ってごみを出していると思われる。また、瀬戸市では数年前から燃えないごみを戸別予約収集制に変更したが、スプレー缶の混入が減少するなど、マナーの向上効果は見受けられた。</p> <p>ただし、戸別収集にすると現状の収集方法と比較してコストが数倍になるため、費用とごみ出しマナーとの兼ね合いを比較・検討する必要がある。</p>
委員	<p>高齢者が増えていくにつれて、ごみを自力で出すことが困難な方が増えてくると思う。その対策の一つとして、戸別収集を選択できるようになるとよい。</p>
事務局	<p>一定条件を満たした方に戸別収集をする制度として、ふれあい収集というものがある。</p>
委員	<p>そういった制度をもっとPRするとよい。</p>
委員	<p>高齢者福祉課では、65歳以上の方が登録してお助け隊のようなものを形成し、近隣の方の困りごとを解決する仕組みを構築している</p>

	<p>と聞いたことがある。高齢になるにつれて、今まで普通にできていたことができなくなってくるため、そういった方の手助けをできる制度があるのであれば、自治会等に協力いただきながら周知するとよい。また、戸別収集として各戸の前にごみを出した場合、カラスよけのネットを借用できないため、カラス被害が頻発することが想定される。逆に、誰がごみを出すか分かっている状態で利用されるごみ置場は、きれいに保たれており、ごみ出しルールを守らずにごみを出すことができない雰囲気になっている。戸別収集は、ごみ出しの意識改革につながるとは思うが、生ごみカラス被害の観点からいうと、あまり推奨されるものではない。</p> <p>先ほど、陶磁器類の話があったが、資源リサイクルセンターでは新品の陶磁器を持ち込み、新しい陶磁器を持ち帰る「かえっこ陶器市」を実施しており、私も最初の開催から手伝いをしている。最近は、空き家対策等の整理で出てきた陶磁器類を持ち込む方が増えてきているように見受けられる。</p>
会長	不燃ごみの中で直接的に最終処分場の圧迫につながるというものは、陶器類とガラス類だけでよろしいか。
事務局	はい。
会長	組成調査の結果より、不燃ごみのおよそ半分が最終処分されることになり、残りの半分はいずれかの方法でリサイクルできるといことになる。以前に、廃陶磁器をセメントに混ぜ込んでリサイクルする案が提示されていたがどうなったか。
事務局	今までどおり収集した場合とコストを比較したところ、廃陶磁器をセメントに混ぜ込む方がコストがかかることが判明したために、実現が難しい。
委員	瀬戸市は日本遺産にも登録されたように陶磁器類の生産が盛んなところであり、その分廃棄される量も多いのだろう。陶磁器の生産は瀬戸市の地場産業であるのだから、みんなで話し合っいい処理方法を考えることができるとよい。
会長	産業廃棄物の陶磁器類は採掘場跡地に埋め戻しているとのことであったが、一般廃棄物の陶磁器類も埋めることはできないのか。
事務局	<p>以前はRe瀬戸という廃陶磁器のリサイクル技術により、原料に廃陶磁器を一定の割合混ぜた陶磁器を製作し、強度及びコスト面で一般的な陶磁器と遜色ないレベルまで持ってくるのができたが、廃陶磁器が混ぜられたものということで、なかなか購入してもらえなかった。路盤材やタイルなどの建材に廃陶磁器をリサイクルすることができれば購入者も躊躇することもないだろうと考えられたが、建材として商品化するための強度等の課題がまだ残っているため、瀬戸市にある同種の業界団体等にも協力を依頼したいと考えている。</p> <p>また、日進市では燃えないごみを無くすと宣言し、陶磁器類やガラス類はコストをかけてリサイクルすると聞いている。我々もこれらの品目を、コストをかけて瀬戸市外の事業所でリサイクルを行い、北丘最終処分場へ埋め立てを行わないという選択を迫られるときが来ると思うが、できれば地元の技術をもってリサイクルできるルートがあればと期待している部分もある。</p>

会長	公共事業の際の埋め戻し材に使うといったことはできないのか。
事務局	埋め戻し材として使用できるようにするためには、粒度等を調整してリサイクル材に処理する必要がある。瀬戸市にはそのようなリサイクルができる事業所がない。瀬戸市外に搬出してリサイクルを行う場合には、そのコストやリサイクルに必要なエネルギー等総合的に考慮しながら、検討する必要がある。
会長	名古屋市にそういったことができる事業者がある。灰を溶かして徐冷することで、大きな塊となり、高速道路沿いの法面に設置されている。私も良く知っている事業者なので、紹介することもできる。また、コスト面等考慮しながら検討していただければと思う。
事務局より資料5について説明。	
委員	ミックスペーパーの名称変更について、どのようにして決まったのか。
事務局	「雑がみ」というものは本来、カーボン紙、コーティング紙、金属の付着している紙など禁忌品と呼ばれる紙類を含まないものである。また、これらの禁忌品を含んだ紙類を回収できる業者はほとんどなく、これらの実情を踏まえて、従来の「雑がみ」とは差別化を図るために、内部で検討を行い名称の変更を行った。
会長	ごみ・資源物の出し方チラシと環境課のHPとの連携が少ない。このチラシに掲載されている全体的な内容が分かるHPとの連携があるとよい。また、HP自体が見づらいため、もっと分かりやすく構成しなおすとよい。 来年度の実施計画に掲げている食品ロスの発生抑制について、生ごみの水きりや事業系食品ロスの削減等具体的にはどのようなことを想定しているのか。
事務局	内容についてはごみ減量推進会議で検討している段階であるが、平成30年度前期は市民向け、後期は事業者向けの食品ロス対策を行う予定である。前期に想定している事業としては、食品ロスに関わる事業所の視察、食品ロスを減らす料理方法の紹介をする料理教室の開催、3010運動の啓発、日本の食品ロス量は世界で飢餓に苦しむ人のために必要とされている食品援助の量よりも多いことを訴えかける等を検討している。後期については、これから議論を行う予定である。なお、生ごみの水切りについては、以前に取り組みを行い一旦完了となっている事業である。
委員	水切りについて、日進市で取り組みを開始するという新聞記事が掲載されていた。瀬戸市でも、その取り組みの結果を参考にするとよい。
委員	瀬戸市では、生ごみを一絞りするだけでごみ量が減るといったことなど、昔から生ごみの水切りについて啓発を行っており、後は各自自己啓発を行ってもらおうということで、一旦完了事業とした。 また、日本の食品ロス量が海外と比較して多い理由の一つとして、食品に対する潔癖的な考え方がある。日本では、賞味期限が残り半年ぐらいになると商品を流通させずに廃棄している傾向があるようであり、事業所との協議の中でこの傾向を改善できれば食品ロスの量を減らすことができるのではないかと。この原因の一つとして、モ

	<p>ノが不足していた時代に生まれた人とモノが溢れている時代に生まれた人との間で、食に対する捉え方が異なることが挙げられるのではないか。</p> <p>生ごみの水切りについては、本審議会でいただいた意見を基に再度ごみ減量推進会議で議論を行ってみる。</p>
会長	<p>生ごみの水切りを行う際には、何らかの道具が必要だと思われる。札幌市、加古川市、日進市等の例を参考にしながら、水切りに適した道具を探してみるとよいのではないか。</p>
委員	<p>日進市では、水切り効果として1,000万円ほどのごみ処理経費削減効果が見込まれるとあった。人口の多い瀬戸市であればそれ以上の削減効果が見込まれるのではないか。</p>
会長	<p>実施計画に掲げる、事業者、地域団体との連携による取り組みの実施については、商工会議所さんにもご協力をお願いしたい。内部でも、事業系のごみ減量について何かできることがないか検討いただきたい。</p>
委員	<p>若い人たちはインターネットから情報を得ることが多く、ごみに関する情報発信についても、インターネットをより活用できるようになるとよい。</p>
会長	<p>他に意見はないか。</p> <p>なければ、採決に入る。平成30年度の瀬戸市一般廃棄物処理実施計画案について賛成の方は挙手をお願いします。</p>
全員挙手	
会長	<p>この案は妥当であるということで、本審議会の答申とする。</p>
3 その他	
事務局	<p>事務局から3点ほど伝えたいことがある。</p> <p>1点目は、来年度は瀬戸市一般廃棄物処理基本計画が策定されてから5年目となり、中間見直しを行う必要があるため、皆様には委員の継続をお願いしたく思う。来年度は3、4回ほど審議会を開催予定で、1回目の開催については6月上旬を予定している。お忙しいところ恐縮であるが、よろしく願います。</p> <p>2点目は、尾張東部衛生組合における焼却施設の延命工事に伴い、平成32年度には家庭系の可燃ごみを市外に搬出する必要がある。市外搬出に必要な車両台数やコスト削減の観点からも、尾張東部衛生組合からさらなるごみ減量を要請されている。本審議会にもご協力いただくようお願いする。</p> <p>3点目は、本審議会の傍聴に関する詳細を取り決めした要綱を事務局側で制定したので、内容をご一読いただくようお願いする。</p>
委員	<p>私は今年度をもって定年になるので、来年度からは後任のものが出席させていただく。</p>
事務局	<p>委員の継続について、市民公募委員の方については、今回の中間見直しまでは是非お願いしたく思う。また、組織の代表としてお越しいただいている委員の方について、後任の方への引継ぎをお願いする。また、来年度1回目の開催については、4月早々に日程調整をさせていただきます。</p>